

スクールゾーンだより



発行令和8年6月27日(金)

6月19日(金)に「第1回スクールゾーン実行委員会」を開催いたしました。各担当者様からお話しいただいたことをお知らせします。

改めて各御家庭でもお子さんと話合っていただくことで、交通安全に結びつけは幸いです。

横断歩道を渡るとき

横断歩道は歩行者が優先ですが、残念ながら横断歩道付近に歩行者がいて止まってくれない車があります。横断歩道を渡るときは、必ず止まり自分で右左を見て、車が来ていなか確認してから渡りましょう。渡るときは、手を挙げたり運転手さんとアイコンタクトをしたりして渡る意思をしっかりと示しましょう。



信号が青になったら

青信号になって、すぐに道路を勢いよく渡るのは大変危険です。青になってから、右左を自分の目で確認してから渡りましょう。



ななめ横断は絶対にダメ!



1 横断歩道からはみ出してしまうから

ななめに渡ると、横断歩道の白い線の外側(車がとおる場所)にはみ出しやすくなります。車を運転している人は「歩行者は白い線のなかを歩いてくるだろう」と思っているので、線の外側にはみ出して歩いている人がいると、気付くのが遅れてぶつかってしまうことがあります。

2 渡る距離が長くなるから

真っ直ぐ渡るよりも、斜めに渡る方が、歩く距離がずっと長くなります。距離が長くなるということは、その分「車道(車が通る危ない場所)にいる時間」が長くなるということ。時間が長くなれば、それだけ車にひかれる危険が高まってしまいます。

3 まわりの車が見えにくくなるから

真っ直ぐ渡るときは、右や左をしっかりと見ながら歩くことができます。でも、ななめに歩くと、自分の体がななめを向いてしまうので、後ろから曲がってくる車や、ななめ後ろから近付いてくる車に気づきにくくなります。また、子どもは大人よりも視野が狭いため、特に車に気づきにくい特性があります。さらに、車の運転手からも、あなたの顔が見えないので、気付いてもらいにくくなります。

こんな場所に気を付けて！！



伝えよう感謝の気持ち

いつも見守っていただいている地域の皆さんに、「ありがとう」感謝の気持ちを伝えましょう。

朝は

「おはようございます」

帰りは

「さようなら」

と**自分から大きな声**で伝えるとよいですね。

安全な地域を目指して、様々な方がそれぞれの立場で、日々子どもの安全のために取り組んでいただいております。特に、各町内会の皆様には、毎日の子どもの見守り活動など、大変お世話になっております。また、交通安全ボランティア（スクールガード登録）として、交差点等に立ったり、登校時に見守ったりしてくださっている保護者や地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

本校では、交通安全や校外の過ごし方について、年間を通して指導していくことができるよう、学級指導の「年間計画」として教育活動に位置付けています。見守り時に気づきの点など、子どもたちへの指導に生かしていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。

☆第2回目のスクールゾーン実行委員会は、11月18日（水）に行う予定です。